

問1 岩手県や福岡県において、1960年代後半には工業出荷額の約3割を占めていた鉄鋼業の割合が、2018年時点で1割前後にまで低下している主な要因として、日本の産業全体に見られるどのような背景が挙げられますか。 (2022年 福岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 原料となる鉄鉱石の輸入価格が高騰し、日本国内のすべての製鉄所が閉鎖に追い込まれたため | 2. 工業地帯が沿岸部から内陸部へ移動したことで、鉄鋼製品の輸送コストが大幅に増大したため | 3. 産業構造の変化にともない、経済の重点が重厚長大産業から加工組立型やサービス産業へ移行したため | 4. 環境保護の観点から、金属資源を利用する工業製品の生産が法律によって厳しく制限されたため |
|---|---|---|--|

問2 日本が輸入している主な鉱産資源と、その主な輸入先相手国の組み合わせとして最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。 (2026年

宮崎県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------------|-------------------|-----------------|---------------|
| 1. 原油 — オーストラリア | 2. 鉄鉱石 — アラブ首長国連邦 | 3. 石炭 — サウジアラビア | 4. 鉄鉱石 — ブラジル |
|-----------------|-------------------|-----------------|---------------|

問3 国や地域の産業構造は、輸出される品目の構成に強く反映されます。一般的に、工業が発展している国と、天然資源が豊富な国における輸出の特徴について述べたものとして、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 高知県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 工業が発展している国では機械類や自動車などの工業製品が輸出の中心となり、資源が豊富な国では石炭や天然ガスなどの鉱産資源が輸出の中心となる。 | 2. 工業が発展している国では石炭や銅鉱などの鉱産資源が輸出の中心となり、資源が豊富な国では農産物やサービス貿易が輸出の中心となる。 | 3. どの国においても産業構造に関わらず、食料品などの農産物とサービス貿易が輸出額の大部分を占めるのが一般的である。 | 4. 工業が発展している国では未加工の原料や燃料が輸出の中心となり、資源が豊富な国では高度に加工された機械類が輸出の中心となる。 |
|--|--|--|--|

問4 中国、ドイツ、インド、イギリスの4か国における2010年と2018年の発電エネルギー源別割合の変化を比較したとき、これらすべての国に共通して見られる傾向として正しいものはどれですか。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|--|-------------------------------------|
| 1. 水力発電が占める割合が、火力発電を上回るほど増加している。 | 2. 風力発電と太陽光発電が占める割合が、いずれも増加している。 | 3. 二酸化炭素を排出する火力発電の割合が、すべての国で5割以下に減少している。 | 4. バイオマス発電の割合が、太陽光発電の増加率を大きく上回っている。 |
|----------------------------------|----------------------------------|--|-------------------------------------|

問5 ある地域において、観光振興に向けた基礎資料を得るために、訪問者の居住地や交通手段、宿泊状況などを把握する実態調査を行うことになりました。この調査の対象として最も適切なものはどれですか。 (2017年 香川県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------------------|-----------------------|----------------------|-----------------------|
| 1. 地域内の宿泊施設に滞在している宿泊客のみ | 2. その地域を訪れている観光施設の利用客 | 3. 観光地にある商店や施設で働く従業員 | 4. 駅の改札を利用している通勤者や通学者 |
|-------------------------|-----------------------|----------------------|-----------------------|

問6 日本の産業構造が、第三次産業の割合が約7割に達する現在の形へと変化してきた背景や理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2015年

岐阜県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 技術革新による農業や製造業の機械化・自動化が進み、余剰となった労働力が多様化したサービス業へ移動したため。 | 2. 第二次産業の生産性が著しく低下したことで、国を挙げて工業を廃止し、すべての労働力を商業に集中させたため。 | 3. 食料自給率を低下させることを目的として、政府が第一次産業から第三次産業への強制的な職業転換を命じたため。 | 4. 発展途上国から多くの工業製品を輸入することが不可能になり、国内のすべての産業をサービス業に特化させたため。 |
|--|---|---|--|

問7 日本国内の都道府県別の住宅用太陽光発電機器の設置状況をまとめた資料から読み取れる、地理的な分布の傾向として正しいものはどれですか。 (2023年 秋田県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 設置割合が高い上位の県は本州の内陸部や九州に多く、設置割合が低い下位の県は日本海に面した地域に多い。 | 2. 設置割合が高い上位の県は年間降水量が最も多い紀伊半島周辺に集中し、設置割合が低い下位の県は瀬戸内海沿岸に多い。 | 3. 設置割合が高い上位の県は太平洋に面した沿岸部に多く、設置割合が低い下位の県は標高の高い本州の内陸部に多い。 | 4. 設置割合が高い上位の県は広大な平野を持つ北海道や関東地方に多く、設置割合が低い下位の県は四国地方に多い。 |
|---|--|--|---|

問8 近年、多くの自治体で「地産地消」の取り組みが推進されています。この取り組みがもたらす効果や目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2016年 山形県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 農産物の生産を海外の適地に任せることで、より安価な食料を安定的に輸入できるようにする。 | 2. 特定の農産物のみを大規模に生産し、全国や海外の市場へ大量に供給することで生産効率を高める。 | 3. 生産地から消費地までの輸送距離を短くすることで、二酸化炭素の排出を抑えるなど環境への負荷を軽減する。 | 4. 地域の農産物をすべて加工品にすることで、保存性を高めて遠方の都市部へ販売することのみを目的とする。 |
|--|--|---|--|

問9 宮崎県や高知県などの温暖な地域において、ビニールハウスなどの施設を利用してピーマンやナスなどの収穫時期を通常よりも早めて出荷する「促成栽培」が行われています。このような工夫が行われる背景にある、農家の経済的なねらいとして最も適切なものはどれですか。 (2021年

和歌山県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 夏の強い日差しや台風による被害を避けるために、収穫を春までにすべて終わらせるため | 2. 大都市の近くで栽培を行うことで、輸送にかかる時間やコストを最小限に抑えるため | 3. 他の産地の出荷が少ない時期に市場へ出すことで、より高い価格での販売を目指すため | 4. 同じ土地で1年に2回異なる種類の作物を栽培することで、土地の利用効率を高めるため |
|---|---|--|---|

問10 日本国内における水産物の需要低下に対応するため、宮崎県などの自治体や水産事業者が行っている取り組みの説明として、最も適切なものを次のうちから1つ選んでください。 (2022年 宮崎県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------------------------|-------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 1. 海外市場に向けた水産物の輸出拡大を推進する取り組み | 2. 沿岸地域で行う遠洋漁業の規模を大幅に縮小する取り組み | 3. 水産物の国内における購入量を法的に制限する取り組み | 4. 国内で消費する全水産物を輸入に切り替える取り組み |
|------------------------------|-------------------------------|------------------------------|-----------------------------|

問11 日本の諸地域の農業に関する説明として、北海道と三重県の統計的な共通点や特徴を正しく述べているものはどれですか。 (2017年 愛知県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 北海道では米の産出額が農業の柱となっており、畜産の産出額の約4倍に達している。 | 2. 三重県では果実の産出額が最も多く、農業産出額全体の約3割を占める畜産を上回っている。 | 3. 北海道と三重県はともに、稲作が農業産出額の5割以上を占める米どころとして知られている。 | 4. 北海道と三重県はともに、乳や肉を生産する畜産の割合が農業産出額全体の約30%を占めている。 |
|--|---|--|--|

問12 茶の栽培に適した自然条件について、土地の性質とその利点の組み合わせとして正しいものを次の中から選びなさい。 (2024年 富山県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|---------------------------------------|
| 1. 低湿地：地下水が豊富であり、茶の栽培に必要な大量の水を常に根から吸収できる | 2. 急峻な山の北側：日光を遮ることで、光合成を抑制し葉を柔らかく保つことができる | 3. 緩やかな傾斜地：水はけが良く、根が腐るのを防ぐとともに霜の被害を抑えられる | 4. 盆地の中心部：湿気が溜まりやすく、乾燥を好まない茶の木の成長を助ける |
|--|---|--|---------------------------------------|